



2003年9月中間期連結決算内容

株式会社 ニチレイ

2003年11月7日

お問合せ先:

財務・IR広報部 (IR広報担当) マネジャー
柳沢 健二

TEL: 03 - 3248 - 2235

E - mail: yanagisawak@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir>



03 / 9 は水産と低温物流の不調で減収・営業減益

2003年9月中間期の連結業績

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	02/9	03/9(E)	03/9	03/9対02/9比較	
				増減額	増減率
売上高	2,863	2,905	2,787	-76	-2.7%
営業利益	95	93	84	-10	-11.4%
経常利益	79	83	72	-6	-8.6%
中間(当期)純利益	28	40	39	10	37.4%

- 売上高**

03 / 9 (E)・・・2003年9月中間期見込・・・は8月4日に発表したもの
 02 / 9は好調だった水産が大きく減収、低温物流や畜産は増収だが補えず全体でも減収に
- 営業利益**

加工食品は調理冷食が好調な売上の一方、ブランド費用に加え原料コスト増もあり減益
 水産は主力商材が漁獲減で取り扱いを控え、固定費を賄えず大きく減益に
 畜産は02 / 9に採算性が低下した輸入チキンの相場が回復して増益
 低温物流は流通型と海外が堅調だが保管型で在庫や在庫の減少が続き減益に
- 経常利益**

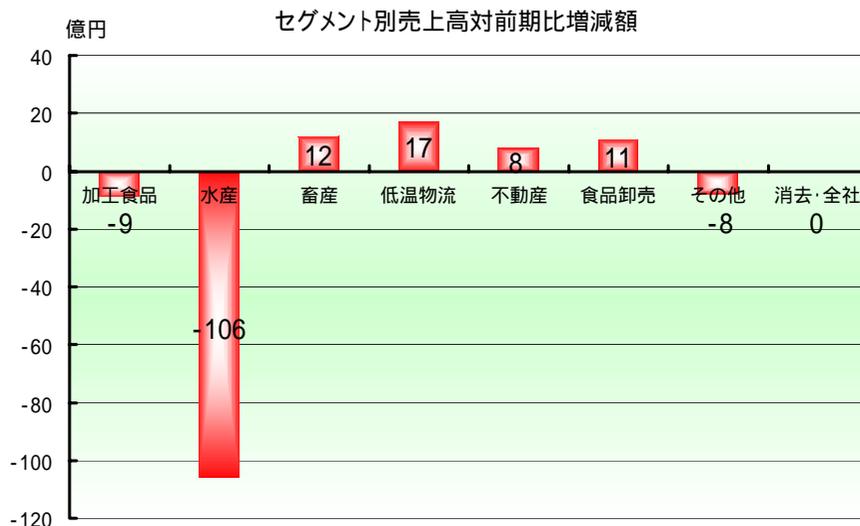
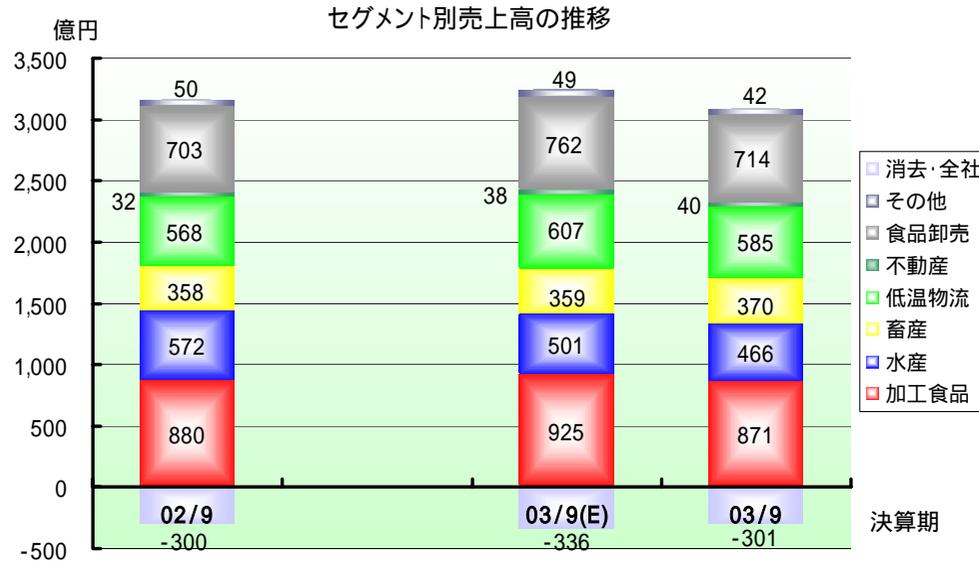
金融収支は02 / 9比1億円改善、02 / 9に4億円あった棚卸資産廃棄損が03 / 9は発生せず
- 中間(当期)純利益**

02 / 9の投資有価証券売却損17億円に対し03 / 9は投資有価証券売却益が10億円発生、
 事業所閉鎖損失も減少、貸倒引当金繰入額5億円が発生するが中間純利益は増益に



水産の営業減益は畜産が一部をカバー

セグメント別売上高と営業利益(その1)



1.加工食品

冷凍食品は家庭用調理冷食の販売が好調な一方で冷凍野菜は売上回復が遅れる。02/9に大きく伸びたアセロラは冷夏の影響もあり売上が減少、全体では1%の減収。利益面では商流費の効果的支出により調理冷食の拡売効果が出た一方、ブランド費用に加え原料チキンの高騰もあり減益となった。

2.水産

たことかにかが漁獲量の減少などで取扱数量を絞り込んだ。えびなどその他の魚種は全般的に市況が軟調、売上高は02/9比19%減、固定費をカバーできず営業赤字に。

3.畜産

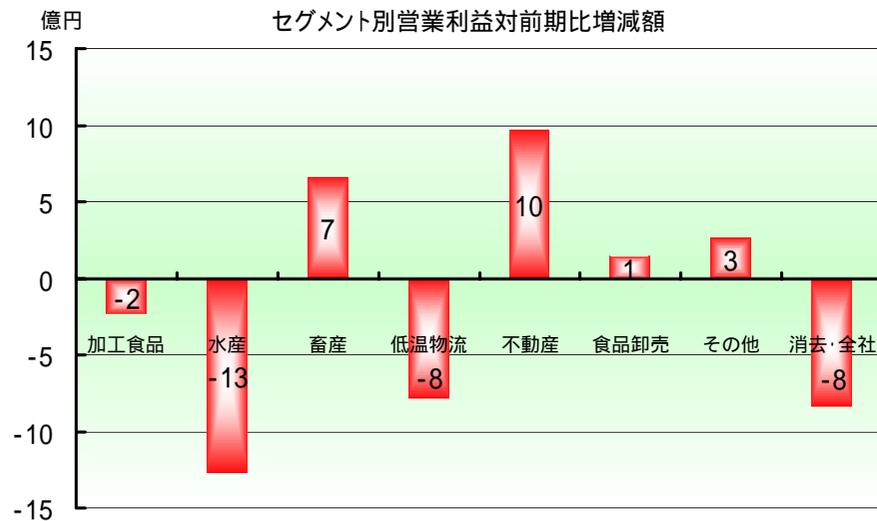
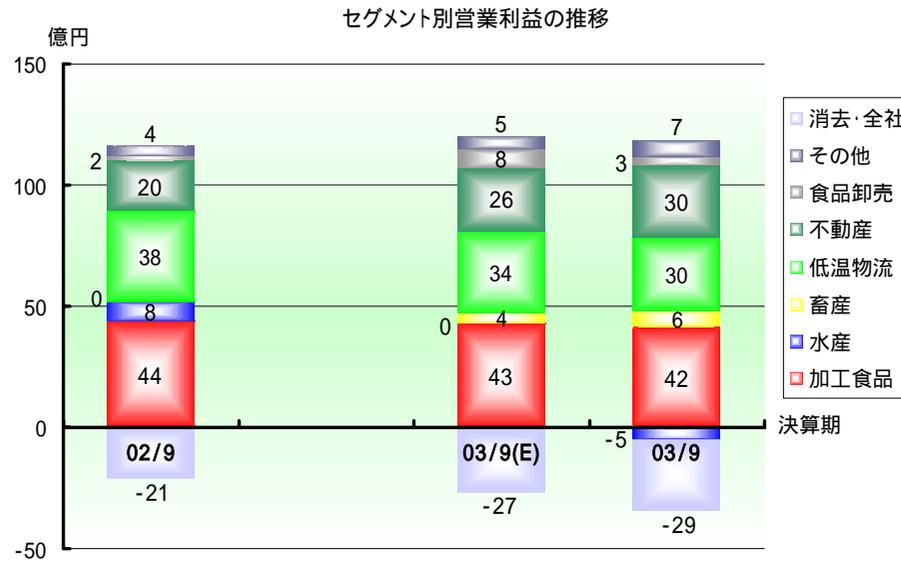
02/9に市況が低迷した輸入チキンは中国産の一時輸入停止などで相場が上昇、代替商材を順調に取り扱い利益面でプラス効果に。BSEや偽装問題の影響が収まった牛肉は、売上の回復に寄与。

(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)



低温物流は減益の一方、不動産は増収増益

セグメント別売上高と営業利益(その2)



4. 低温物流

保管型は畜産物や農産物など輸入食料品の搬入量減少が影響して大口荷主撤退の後荷を埋めきれず在庫量・在庫率がともに02/9を下回り大きく減益に。一方で流通型と海外は増益となるが保管型を補いきれず、全体でも減益となった。

5. 不動産

当初は下期に計画していた仙台市・石川県小松市・福岡県嘉穂郡穂波町の土地売却が前倒しで実現し、02/9比増収増益に。

6. 食品卸売

大手量販店との取り組みが引き続き拡大したが、業務用は外食などの業界環境が厳しく不採算取引は絞り込み、売上・営業利益とも微増にとどまった。

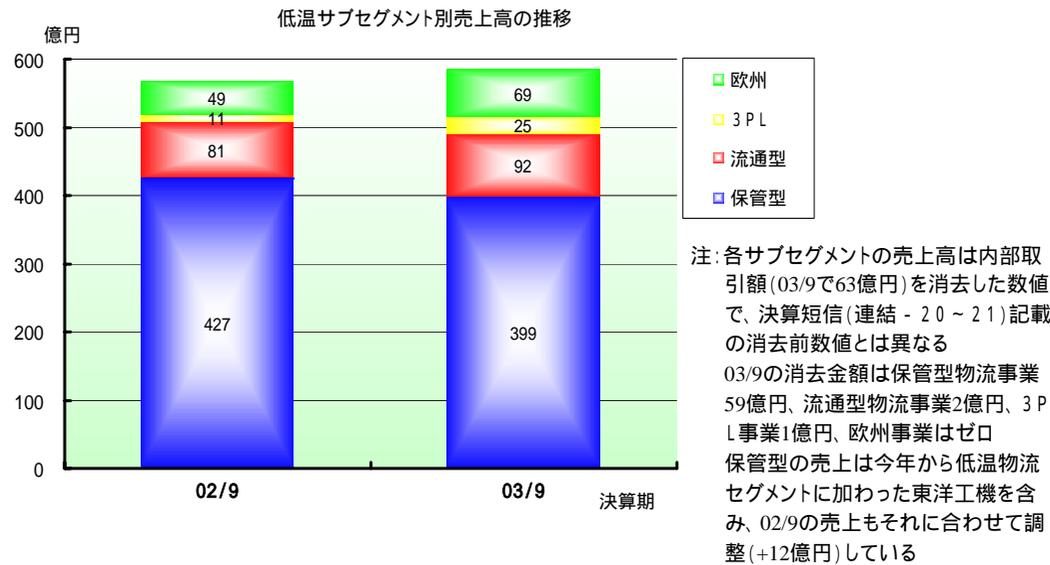
7. その他

バイオサイエンス事業は産業用培地類が売上を拡大、利益面でも寄与した。



低温物流は保管型の稼働率が低下して減益

低温物流事業の対前期比増減の要因



1. 保管型

大口荷主の関東地区からの撤退が当初予定から早まり稼働率にマイナスの影響、輸入食料品の搬入減少もあり厳しい事業環境が続く。地方の冷蔵倉庫では貨物の東京集中による空洞化が進展した。全体では02/9比減収減益。

保管賃単価は引き続き横這いで推移。

2. 流通型

イオングループ向けの3拠点(仙台・静岡・四国)は採算が改善中。

イオン向け以外の既存拠点は引き続き好調に推移している。

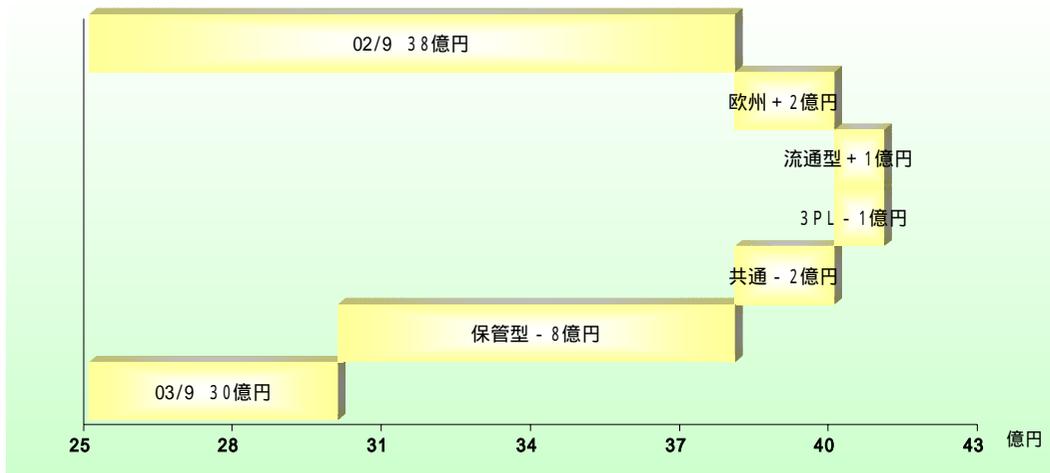
3. 3PL

ニチレイ加工食品の物流再編がスタート、安定運営への業務進捗には若干の遅れがある。

4. 欧州

保管・輸入通関と輸配送の機能を組み合わせ集荷活動を引き続き積極的に展開、関税の税率変更に伴うチキンの一時的保管需要もあり前期比増収増益に。 4

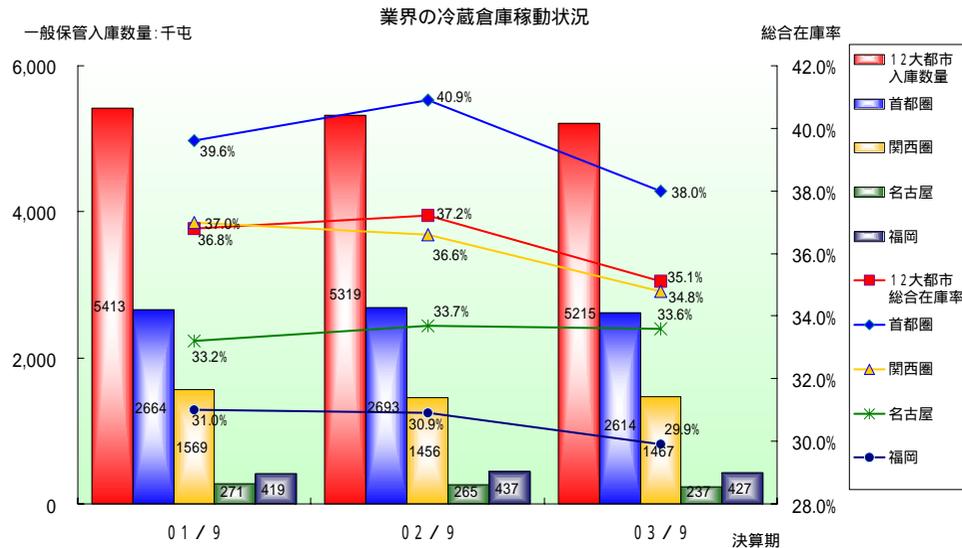
低温物流事業営業利益の対前期比増減要因



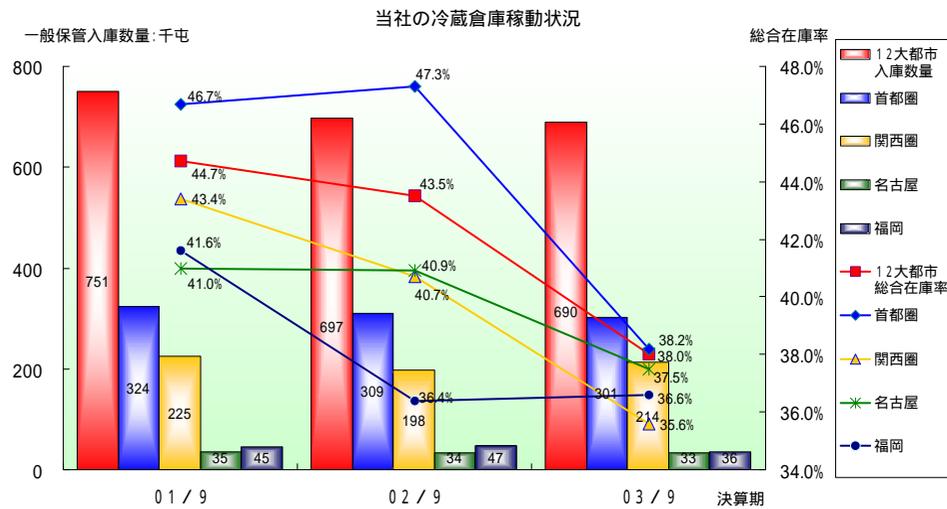


輸入食料品搬入減と大手荷主撤退で在庫率が低下

冷蔵倉庫の稼働状況



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



1.業界の状況

輸入水産物と農産物の搬入量減少などにより入庫量が低下、首都圏と関西圏では在庫率も下げている。

2.当社の状況

入庫量と在庫率が共に低下、特に首都圏と関西圏は大口荷主撤退の影響を受ける。主な後荷の冷凍食品は回転が早く収容効率が低いいため、在庫率向上に貢献しにくい。

3.業界の設備能力

拠点数漸減傾向と設備能力の横ばいが続く。



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



調理冷食は「お弁当にGood!」中心に家庭用が好調

ニチレイ(単体)の冷凍食品売上高

1. 冷凍食品全般

02/9比1%の増収、調理冷食は家庭用・業務用を合わせると4%の増収。冷凍野菜は中国産冷凍ほうれん草の販売自粛継続もあって市場規模の回復が遅れ当社も減収となった。

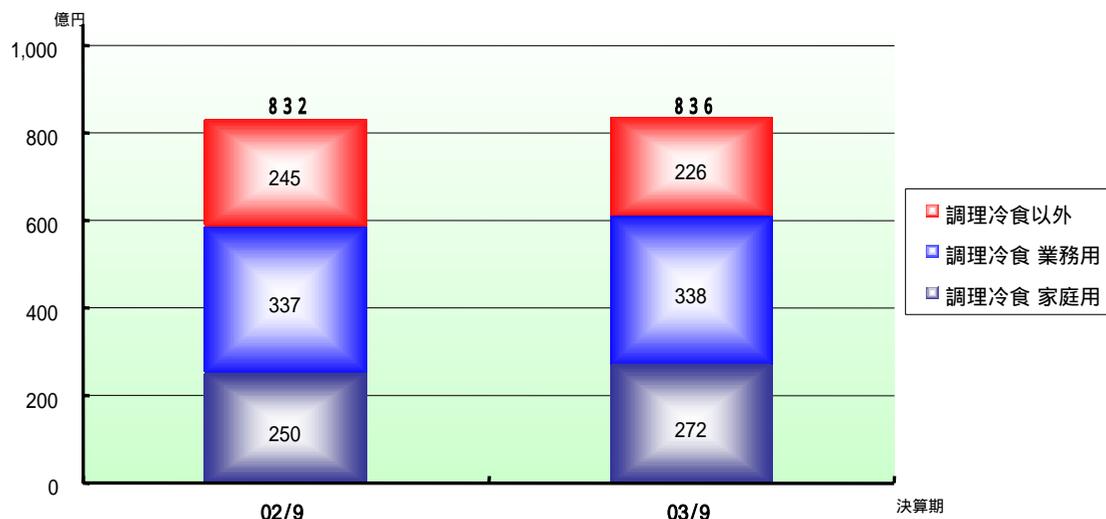
2. 調理冷食

家庭用: 02/9比9%の増収。売上高の4割を占めるお弁当向け商品を今春から「お弁当にGood!」ブランドに統合、着色料・保存料・化学調味料不使用をコンセプトに展開し02/9比117%と増収の原動力に。値引きをしない上等シリーズも02/9比193%となり、採算面で貢献した。

業務用: 売上は02/9比横ばい。OSI社とのアライアンスにより発売を開始した新商品「グレイビーハンバーグ」が好調な出足、ユーザーニーズに応えた商品を投入するコロッケ類も引き続き増収だが、チキン加工品は中国の鳥インフルエンザ発生による輸入停止措置の影響を受けて減収。

カテゴリー別には「グレイビーハンバーグ」を投入した食肉加工品が好調、水産調理品と中華惣菜は業務用商品が振るわず減収に。

冷凍食品売上高の推移



注: 畜産品の中で、日本冷凍食品協会による冷凍食品の定義に合致する商品3億円を新たに「調理冷食以外」の冷凍食品に含め、前年の数値もそれに合わせて調整(5億円増)している

また、調理冷食業務用の一部を今年から「調理冷食以外」に分類変更しており、前年の数値もそれに合わせて調整(8億円)している



有利子負債は目標達成へ、財務安全性比率も改善

03 / 9期連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

科目	03/3	03/9	増減
(資産の部)			
流動資産	1,165	1,307	142
固定資産	2,142	2,072	-69
資産の部合計	3,307	3,379	72
(負債・資本の部)			
流動負債	1,194	1,141	-53
固定負債	1,195	1,269	73
負債の部合計	2,389	2,410	20
少数株主持分	11	11	0
資本の部	906	957	51
(有利子負債)	1,453	1,431	-22
科目	02/9	03/9	増減
(設備投資額)	40	25	-15
(減価償却実施額)	63	58	-4

【主な要因】

売上債権が71億円、棚卸資産が34億円増加、いずれも売上が3月より9月前後に増加する季節要因によるもの。

設備投資抑制の結果、減価償却による減少との差額33億円減のほか、投資有価証券が売却により減少した。

季節要因により仕入債務が50億円増加。一方では流動負債に含まれる借入金が99億円減少し、シンジケートローンで90億円を調達。長期借り入れへのシフトを行い、財務安全性比率の改善を図った。

季節要因による運転資金の増加により削減額は小幅、02 / 9比では229億円の減少。04 / 3には期末残高目標1,350億円をさらに下回る見通し。

03 / 9の設備投資の主なもの:
船橋・大阪埠頭・鳥栖物流サービスセンター(いずれも荷捌き室の低温化増強工事)
オランダの冷蔵倉庫増設...一部継続中

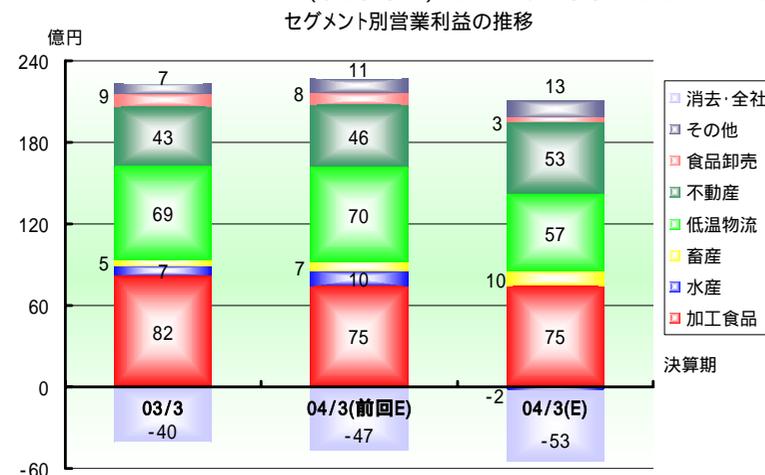
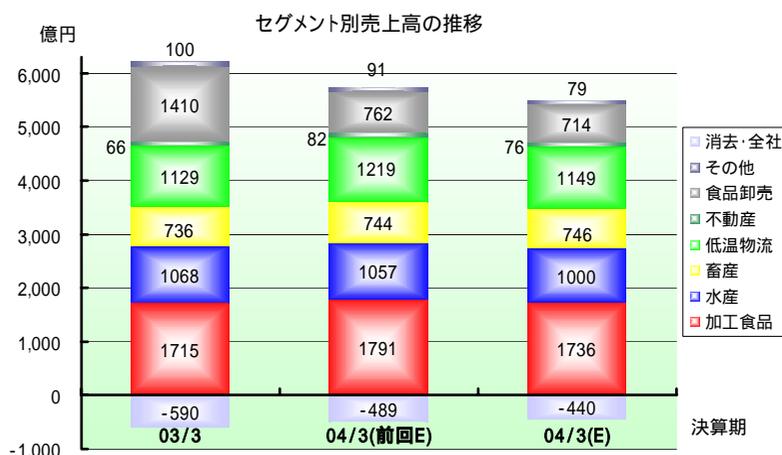


後半も事業環境は厳しいが課題への取り組みを継続

2004年3月期の連結業績見込み

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	03/3	04/3(前回E)	04/3(E)	04/3(E)対03/3比較	
				増減額	増減率
売上高	5,634	5,257	5,060	-574	-10.2%
営業利益	182	180	156	-26	-14.6%
経常利益	162	165	137	-25	-15.9%
当期純利益	52	80	59	6	13.1%

04/3(前回E)は8月4日に発表したもの



1. 加工食品は引き続き原料コストが上昇するが、調理冷凍食品の拡売で当初計画通りの利益へ。
2. 水産は通期でも営業赤字の見込みだが、好採算商材の取り扱いを伸ばし中間期からの挽回を目指す。
3. 低温物流は厳しい事業環境が続く保管型のテコ入れに注力、下期は貨物集荷の徹底を図る。中期的には地方の冷蔵倉庫空洞化に対する構造的対策の実施に向けて計画。
4. 食品卸売は10月からの合併新会社が連結対象外で、今下期以降はセグメント売上・営業利益がない。



営業外収支と特別損益は前期比好転へ

単位:億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す	中間期				通期		
	03/9	02/9	増減		04/3E	03/3	増減
【営業外収支】 (主要項目)	- 12	- 16	+ 4	【営業外収支】 (主要項目)	- 19	- 19	0
金融収支	- 9	- 10	+ 1	金融収支	- 19	- 20	+ 1
持分法投資損益	0	+ 1	- 1	持分法投資損益	+ 1	+ 2	- 1
【特別損益】 (主要項目)	0	- 28	+ 28	【特別損益】	- 28	- 69	+ 41
投資有価証券売却益	+ 10	-	+ 10				
投資有価証券評価損	- 2	- 2	0				
投資有価証券売却損	-	- 17	+ 17				
事業所閉鎖損失	- 1	- 4	+ 3				
貸倒引当金繰入額	- 5	-	- 5				

持分法投資損益の増減の主な内訳

中間期: パシフィックバイオロジックス(抗体医薬の治験薬製造)とスラポンニチレイ(冷凍食品製造)が02/9比それぞれ1億円の減

通期: パシフィックバイオロジックスとスラポンニチレイが03/3比それぞれ1億円の減、アールワイフードサービスが新規でプラス2億円

パシフィックバイオロジックスは建設中の工場が03/12に稼働するが受注計画に遅れがある、スラポンニチレイはチキン原料の価格上昇が響く

保有資産の見直し圧縮に伴う売却

低温物流事業の冷蔵倉庫廃止(川崎市場物流サービスセンター)に伴うもの

民事再生法を申請した藤三商会に対する売上債権の引当が主なもの

下半期に発生が見込まれる主なものは

- 固定資産廃棄・売却損、生産体制の再編に関わる損失、冷蔵倉庫の閉鎖損失



データ集

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・前回見込・前年実績

単位: 億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	中間期			下期			通期		
	03/9	(前回E)	02/9	04/3(E)	(前回E)	03/3	04/3(E)	(前回E)	03/3
(売上高)									
加工食品	871	925	880	865	866	835	1,736	1,791	1,715
水産	466	501	572	534	556	496	1,000	1,057	1,068
畜産	370	359	358	376	385	378	746	744	736
低温物流	585	607	568	564	612	561	1,149	1,219	1,129
不動産	40	38	32	36	44	34	76	82	66
食品卸売	714	762	703	0	0	707	714	762	1,410
その他	42	49	50	37	42	50	79	91	100
全社または消去	-301	-336	-300	-139	-153	-290	-440	-489	-590
合計	2,787	2,905	2,863	2,273	2,352	2,771	5,060	5,257	5,634
(営業利益)									
加工食品	42	43	44	33	32	38	75	75	82
水産	-5	0	8	3	10	-1	-2	10	7
畜産	6	4	0	4	3	5	10	7	5
低温物流	30	34	38	27	36	31	57	70	69
不動産	30	26	20	23	20	23	53	46	43
食品卸売	3	8	2	0	0	7	3	8	9
その他	7	5	4	6	6	3	13	11	7
全社または消去	-29	-27	-21	-24	-20	-19	-53	-47	-40
合計	84	93	95	72	87	87	156	180	182

注:(E)は今回発表した見込、(前回E)は8月4日に発表した見込



当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画、見通し、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に対する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。このため、これらの業績見通しのみで全面的に依拠して投資判断されることは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の判断に基づき、常にニチレイが将来の見直しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のものが含まれます。

ニチレイグループの事業活動を取り巻く個人消費動向を中心とした経済情勢
および業界環境
米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
成長戦略とローコスト構造の実現性
有利子負債削減の実現性
偶発事象の結果 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。